

授業科目名	地域医療学	担当教員	佐野千晶、熊倉俊一 (他 日程表に記載)
開講年次・学期	1年後期	必修/選択	必修
開講形態	講義およびSGD	時間数/単位数	2単位
学習目標			
地域医療学では、地域社会における医療を多元的な視点から理解することを目指します。また、地域医療が抱える課題を解決するための方略を学ぶとともに、地域医療への使命感を養います。			
ディプロマポリシーとの関連			
<p><地域医療への志向力> 地域医療が抱える諸問題に対して積極的に取組もうとすることができる。</p>			
学修成果（到達目標）			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域医療の現状と問題点について説明できる。 2. 島根県の地域医療の現状と問題点について理解し、解決策を提案できる。 3. 医療を支える多職種間連携の必要性が理解できる。 4. 病診連携、病病連携、行政との連携の必要性について説明できる。 5. へき地における医師の役割が理解できる。 6. 地域における疾病予防、健康増進の取り組みについて具体的な事例にもとづき説明できる。 7. 地域包括ケアシステム概念、保健・医療・福祉・介護のつながりについて説明できる。 8. 世界の国々と日本との地域医療を相対的に比較検討し、特徴を分析できる。 9. 災害医療体制の変遷について説明できる。 10. 地域医療に対する使命感をもつことができる。 			
授業の進め方			
講義およびスモールグループディスカッションを基本とする。			
評価方法			
<p>総括評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ●各講義レポート 割合：90% (ネットの環境が悪く受講できなかった学生は、<career@med.shimane-u.ac.jp 地域医療支援学講座>にその理由を報告する。その場合は、録画データを視聴してレポートを提出する。) ●多肢選択問題・課題テスト 割合：10% 			
合格基準			
総括評価全体を100点に換算した際の平均点が60点以上			
教科書・参考書			
<p>教科書 なし 参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域医療学入門 日本医学教育学会地域医療教育委員会・全国地域医療教育協議会合同編集委員会監修 診断と治療社 2019 2. World Health Organization. Increasing access to health workers in remote and rural areas through improved retention. Global policy recommendations. http://www.who.int/hrh/retention/guidelines/en/ 3. Nojima Y, Kumakura S, et al. Job and life satisfaction and preference of future practice locations of physicians on remote islands in Japan. Human Resources for Health 2015, 13:39 4. 地域医療テキスト 自治医科大学監修 医学書院 2009 5. これから地域保健を担う人たちへ ―島根県の取り組みの実践から― 2010 6. 村で病気がたたかう 若月俊一 岩波新書 1971 7. 草の根に生きる―愛媛の農村からの報告 岩波新書 1973 (絶版のため地域医療支援学から貸し出し可) 8. 自分たちで生命を守った村 菊地武雄 岩波新書 1972 9. 華岡青洲の妻 有吉佐和子 新潮文庫 1970 10. 島根の医療 島根県HP https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/iryu/shimaneno_iryu/shuchou.html 			

オフィスアワー

熊倉俊一（医学科長, 地域医療教育学）質問等随時 講座HP お問い合わせフォームより
佐野千晶（地域医療支援学）質問等随時 E-mail: career@med.shimane-u.ac.jp
講師の先生方への質問を、随時受け付けますので、career@med.shimane-u.ac.jpに連絡して下さい。

コア・カリとの関連

B-1-7) 地域医療・地域保健

ねらい：

地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を抽出し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。

学修目標：

- ①地域社会（へき地・離島を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科及び臨床・非臨床）の現状を概説できる。
- ②医療計画（医療圏、基準病床数、地域医療支援びょういん、病診連携、病病連携、病院・診療所・薬局の連携等）及び地域医療構想を説明できる。
- ③地域包括ケアシステムの概念を理解し、地域における、保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- ④かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。
- ⑤地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。
- ⑥災害医療（災害時保健医療、医療救護班、災害派遣医療チーム<DMAT>、災害派遣精神医療チーム<DPAT>、日本医師会災害医療チーム<JMAT>、災害拠点病院、トリアージ等）を説明できる。
- ⑦地域医療に積極的に参加・貢献する。

B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度

ねらい：

限られた医療資源の有効活用の視点を踏まえ、保健・医療・福祉・介護の制度の内容を学ぶ。

学修目標：

- ②医療保険、介護保険及び公費医療を説明できる。
- ③高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。
- ⑦医療関連法規に定められた医師の義務を列挙できる。
- ⑩医療従事者の資格免許、現状と業務範囲、職種間連携を説明できる。

B-1-9) 国際保健

ねらい：

国際保健の重要性について学ぶ。

学修目標：

- ①世界の保健・医療問題（母子保健、感染症、非感染性疾患(non-communicable diseases <NCD>）、UHC (Universal Health Coverage)、保健システム（医療制度）、保健関連SDG (Sustainable Development Goals)）を概説できる。

B-4 医療に関連のある社会科学領域

B-4-1) 医師に求められる社会性

ねらい：

文化的社会的文脈のなかで人の心と社会の仕組みを理解するための基礎的な知識と考え方及びリベラルアーツを学ぶ。臨床実践に行動科学・社会科学の知見を生かすことができるよう、健康・病い・医療に関する文化人類学・社会学（主に医療人類学・医療社会学）の視点・方法・理論について、理解を深める。

学修目標：

- ②病気・健康・医療・死をめぐる文化的な多様性を説明できる。
- ③自身が所属する文化を相対化することができる。
- ④人々の暮らしの現場において病気・健康がどのようにとらえられているかを説明できる。
- ⑤人の言動の意味をその人の人生史や社会関係の文脈の中で説明することができる。
- ⑥文化・ジェンダーと医療の関係を考えることができる。
- ⑦国際保健・医療協力の現場における文化的な摩擦について、文脈に応じた課題を設定して、解決案を提案できる。

準備学修に必要な学修の時間

各講義の中で指示します。